令和8年9月25日
全員協議会説明資料A

未来に向けて
地域の学びと共創を育む

（仮称）防災・文化センター基本計画の最適化について



田尻町

目次

- はじめに～検討の主旨　･･･3
- 将来のまちづくりのために　･･･4
- 生涯学習と地域･まちづくり　･･･5
- 現状の課題　･･･6
- まちを俯瞰する　･･･7
- 地域の安心を日常から　･･･9
- 避難生活にも配慮を　･･･10
- 日常の居場所をつくる　･･･12
- 地域活性化の核となる図書館　･･･13
- 空間が重なり織り交ざる　･･･14
- 機能の両立と相乗効果　･･･15
- 持続可能な事業として　･･･16
- 将来を見据えた最適案　･･･17
- 住民参加の施設づくり　･･･18
- おわりに～今後の進め方　･･･19

はじめに～検討の主旨

- 令和2年度から**基本構想**の検討に着手した総合文化センターは、公民館利用者や住民の意向を取り入れながら、翌年度の**基本計画**を含め、議会の賛同を得ながら駅上広場での整備を決定し、検討を重ねてきました。
- その後、議会改選に伴う計画の中断を経て、計画の是非について議論を進めてきたところです。
- 今回の検討について、計画を**再始動するスタートライン**と位置づけ、社会・経済情勢が大きく変化している中、住民の皆さまとともに、これからの田尻町における安全・安心なまちの未来を考え、（仮称）防災・文化センターとして最適な施設の事業化に向けて、具体的に前に進めていきます。

➢ これまでの経緯、検討目的、前提等については別紙1を参照

➢ 本資料では以降、（仮称）防災・文化センターと表現します



R3年度基本計画時の住民ワークショップ

将来のまちづくりのために

- （仮称）防災・文化センターは、単なる公民館の建替えではありません。住民のみなさんの**充実した生活と豊かな人生**を彩るとともに、いざという時に**安心できる安全な場所**として、出会いと交流を育む**人と地域の共創拠点**をつくる事業です。

  - **共創拠点**…地域の課題解決や持続可能な発展に向けて、自治体や住民、企業、団体などが多様な交流や学びを通じて、新しい価値を共に創造できる施設。ソフト、ハードが密接に連携しながら、地域の活性化を具現化し続けます。

- ネットやSNSなど、人と人とのつながり方が大きく変化している時代のなか、**田尻町の将来**は住民のみなさんが世代を超えて出会い、学び、交流により生まれる**コミュニケーション**が活力を生み、それがまちづくりの源となります。

- これまでも、そしてこれからも、**住民のみなさんが主役**となり、次から次へと新たな交流を生み出し、地域の魅力を創出できるよう、役場も一体となって進めていきたいと考えています。



生涯学習と地域・まちづくり

- これからの田尻町のさらなる発展には、**生涯学習の推進**が欠かせません。



> ➢ **生涯学習**…「いつでも、どこでも、だれでも」できる学習のこと。学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味などさまざまな場や機会において行われる。

- 生涯学習により、**社会の変化に対応**できるようになり、**新しい分野との出会い**、**自身の成長**につながります。
- 人と人がつながり、相互理解・信頼が生まれ、地域課題を共有し、**コミュニティの活性化**へとつながります。
- 小さな生涯学習の機会から、**地域のプロジェクト**、**まちづくりへと発展**する可能性や、**世代間交流**が促され、地域全体が豊かで住みやすいまちへと変わっていきます。
- （仮称）防災・文化センターは、**田尻町の将来に不可欠な生涯学習の場**となる施設です。

現状の課題

文化活動・生涯学習の場としての課題

- 現在の公民館は**築44年を経過**し、建物や設備の老朽化をはじめ、当時の建物のつくりも**時代とともに利便性、機能性が低下**しており、**活動団体も減少**してきている状態です。また、近隣自治体と比べても**小さな図書室、少ない冊数**により読書ニーズに応えられていません。

大規模災害の懸念

- 公民館は**津波浸水想定区域内**にあり、安全面の課題があります。頻発する大地震や浸水被害はいつ起こっても不思議ではなく、いざというときに安心して確実に避難できる場所が必要です。
- 過年度の検討当時も基本方針に**防災機能や避難所対応**を挙げていましたが、**ソフト、ハードの両面でより具体的な災害発生時の対応**を考えていく必要があります。

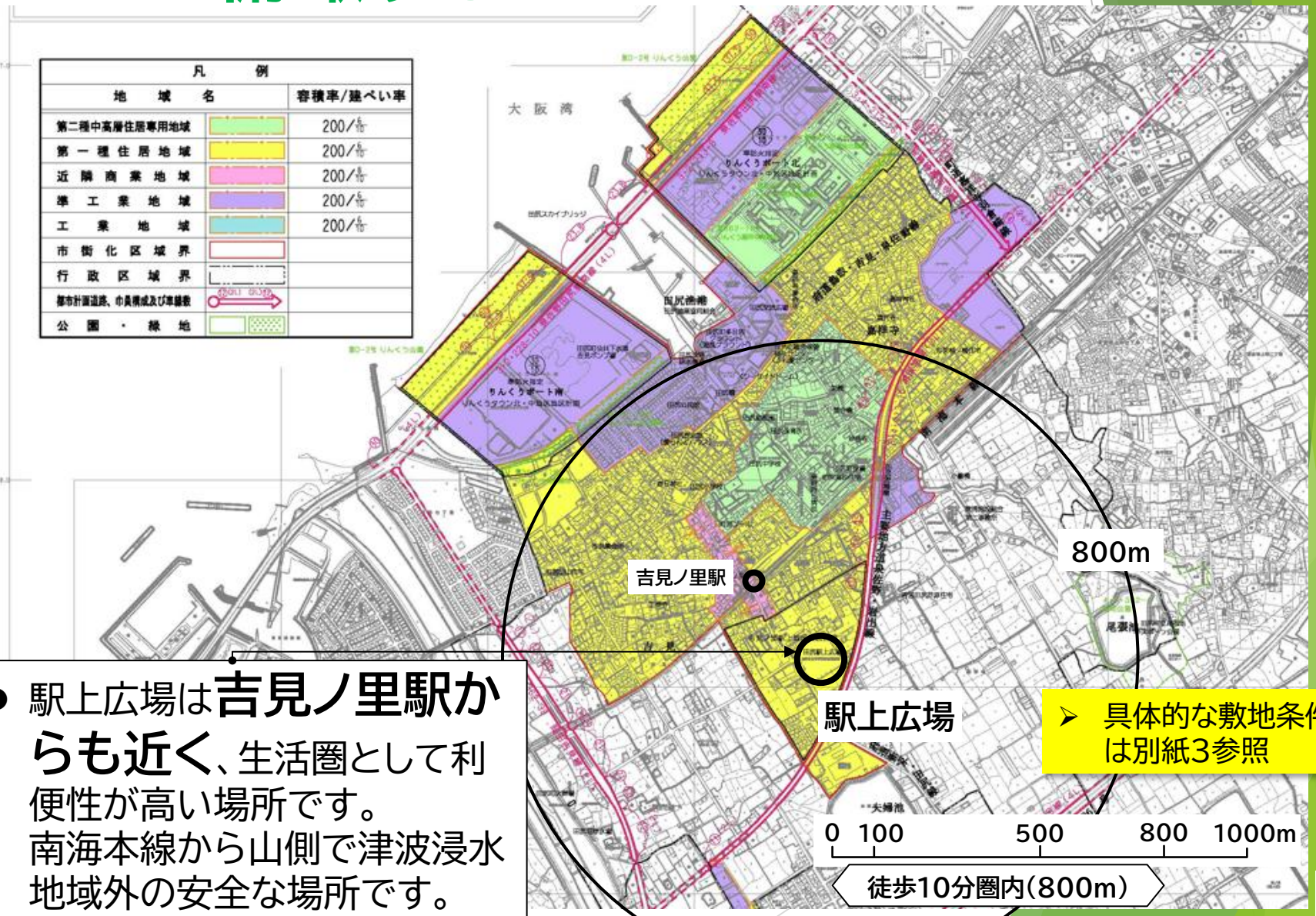
地域コミュニティの重要性

- 人と人との**コミュニケーションが希薄**になりつつあり、日常生活、ひいては災害が起きた非常時にこそ、**日々の交流から生まれる信用と絆、顔と名前の分かるコミュニティ**が命を守り、生活を支える基盤となります。

➢ 基本計画における基本方針は別紙2を参照



まちを俯瞰する

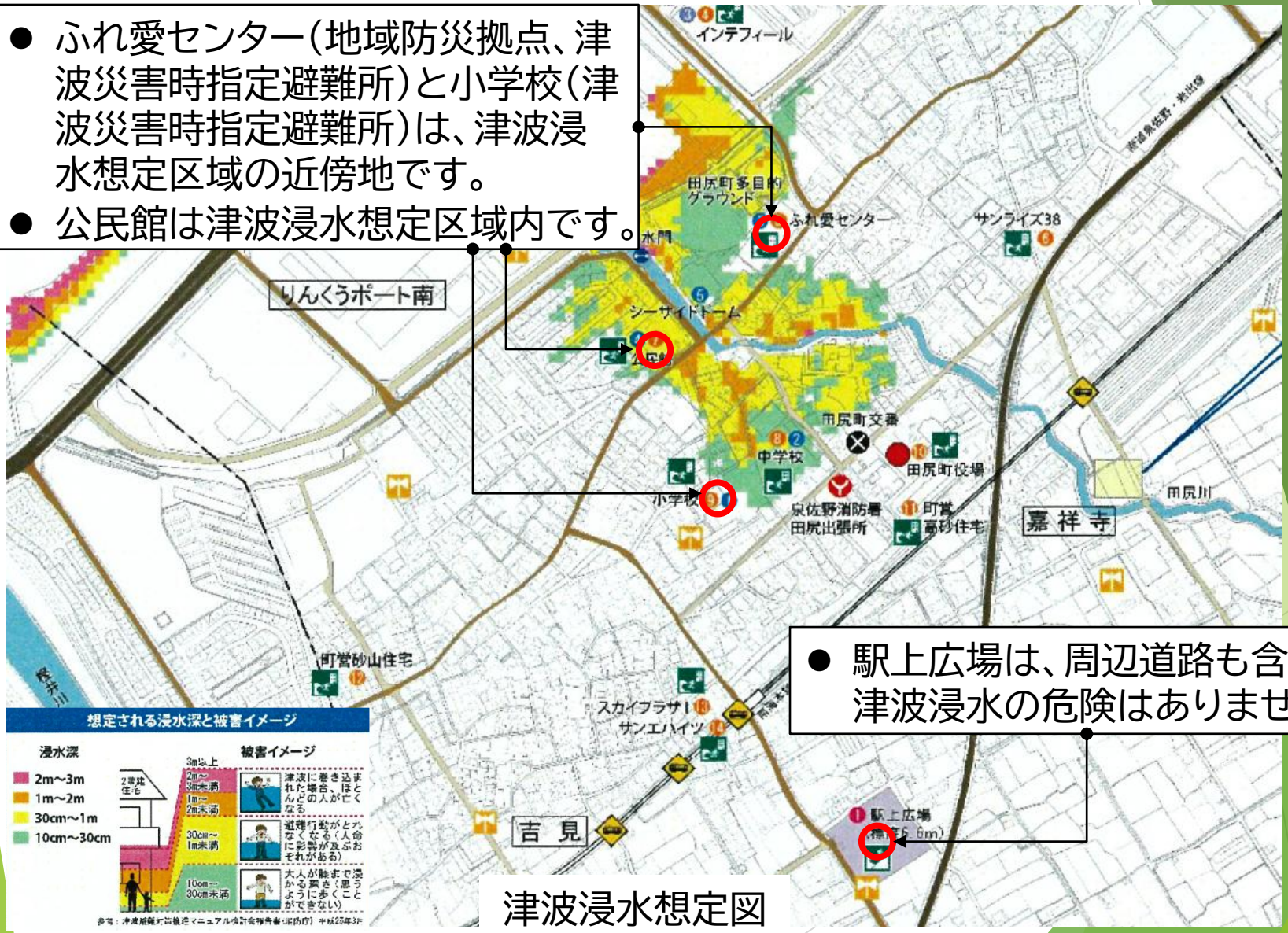


- 駅上広場は**吉見ノ里駅からも近く**、生活圏として利便性が高い場所です。
  南海本線から山側で津波浸水地域外の安全な場所です。

➢ 具体的な敷地条件は別紙3参照

まちを俯瞰する

- ふれ愛センター（地域防災拠点、津波災害時指定避難所）と小学校（津波災害時指定避難所）は、津波浸水想定区域の近傍地です。
- 公民館は津波浸水想定区域内です。



津波浸水想定図

- 駅上広場は、周辺道路も含めて津波浸水の危険はありません。

地域の安心を日常から

- （仮称）防災・文化センターは、平常時は文化・生涯学習施設、災害時には防災拠点施設として、これらを実現できる**フェーズフリー**の施設づくりを進めます。

> ➢ フェーズフリーとは、日常的に利用する環境のなかに、自然なかたちで防災の要素が組み込まれている概念であり、スムーズに被災時対応へ移行できる考え方です。

- 日常的に施設を利用することそのものが、**「ここが/あそこが避難場所だ」**という安心感を生み出します。普段からの施設や避難経路、設備に慣れておくことで、災害時にも慌てず迷わず行動できる。**「日常利用が防災訓練になる」**施設を目指します。
- 南海トラフ大地震発生時には、まず身の安全を守るため**南海本線山側に移動**し、その後**指定避難場所である駅上広場**への移動を呼びかけています。
- 地震災害はいつ発生するか分かりません。現在、**駅上広場には身を寄せる施設がない**ため、夏の暑さや冬の寒さ、雨・風・雪をさえぎることができません。



避難生活にも配慮を

- 大規模災害時に、避難生活を余儀なくされる事態をあらかじめ、想定しておくことが大事です。
- 田尻町の場合、**津波浸水**を想定した避難場所を確保する必要がありますが、既存の建物で避難所に指定されているのはふれあいセンターと小学校のみです。
- 避難生活は**長期間**に及ぶ場合があり、避難所とはいえ人権を尊重した**生活環境（広さ）**を考慮しておく必要があります。
- 国際的かつ国内でも推奨されている**スフィア基準は1人当たり避難スペース3.5㎡**となっています。
- 整備予定の（仮称）防災・文化センターは、避難所として（既存2施設以外での避難生活の有効面積）**2，079㎡**の確保を絶対条件とし、避難所の環境改善、ひいては被災後の災害関連死を防ぐため、建物全体の延床面積を確保する必要があります。

➢ 他の避難所も含めた必要面積については別紙4を参照

避難生活にも配慮を

- R8年7月28日に**R8熊本地震**が発生し、停電や断水等によりほとんどの方が厳しい避難生活を余儀なくされています。
- （仮称）防災・文化センターでは、避難所として必要な以下の機能の設置対応を積極的に検討します。

避難生活への配慮機能

- 地震発生後の**迅速な施設稼働**（自動開錠、自動照明など）
- 停電時の**照明・空調稼働**（非常用発電機、太陽光発電、蓄電設備など）
- **避難生活用水**の確保（耐震性貯水槽や高架水槽、地下水の活用など）
- **簡易医療スペース**の確保
- **仮設トイレ**の対応（マンホールトイレなど）
- 災害時に利用可能な**Wi-Fi対応**
- **車中泊への対応**（屋外照明、放送設備など）
- **共助スペース**（屋外炊き出し：かまどベンチ、ボランティア活動スペース、応援物資保管スペース、ペット対応スペースなど）





日常の居場所をつくる

- （仮称）防災・文化センターは、気軽に利用できる複合施設として**まちの図書館/滞在型のライブラリー**を核とした、日常生活における住民の**居場所/サードプレイス**です。

  ➢ 参考として文科省図書館有識者会議資料：別紙5参照

  ➢ サードプレイスとは、人々の生活空間を「家庭」「学校・職場」「第三の居場所」に分類し、日常の役割や義務から解放される自由に交流できる場のことです。（アメリカの社会学者レイ・オルデンバーグが1989年の著書で提唱した概念）



- 学校帰りや仕事帰りなどにふらっと訪れ、**思い思いの時間を過ごす**ことのできる空間や、幼児スペースを設けて保護者の読書をサポートするなど、新たな居場所として交流や出会いを生み出します。

  ➢ 夏場はクーリングシェルター、冬場にはウォーミングシェルターとして、災害時にも大いに役立ちます。

- 平土間や段床にもなる**多目的ホール**、生涯学習の場となる**文化活動諸室**、**開放的なロビー空間**（カフェや飲食、ギャラリースペースとしても活用）など、**生涯学習を推進する複合施設**です。

  ➢ 各機能の具体的なイメージについては別紙6参照

地域活性化の核となる図書館

- 図書館は、単に本を「借りる・読む」場所から、**人が「集い・つながり・活動する」地域の拠点**に変化しています。
- 人を呼び、つなぎ、活動を生むことで、**賑わい・活性化につながる「地域のハブ」**としての役割を担っています。

➢ 図書館を中心とした文化・学習活動及び地域活性化の拠点施設事例 別紙7参照

■図書館の特徴・期待されること

- ➢ **幅広い世代が日常的に利用・滞在**できる場所として、人を呼び込む
- ➢ 本・情報との出会いにより**知識・関心が広がる**
- ➢ 異なる世代や関心を持つ人が集まることで、**新たな交流や多世代間のつながりを生む**
- ➢ **本や情報、人との出会いをきっかけ**に、創作や活動など**新たにやってみる機会・活動を促す**



図書館

学ぶ・知る
知識・関心が広がる

人と出会う
交流・つながりが生まれる

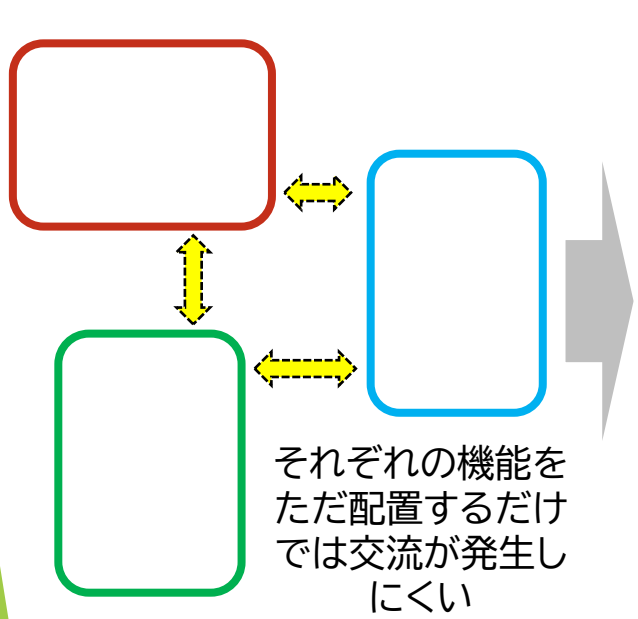
やってみる
創作・活動の起点となる

まち全体

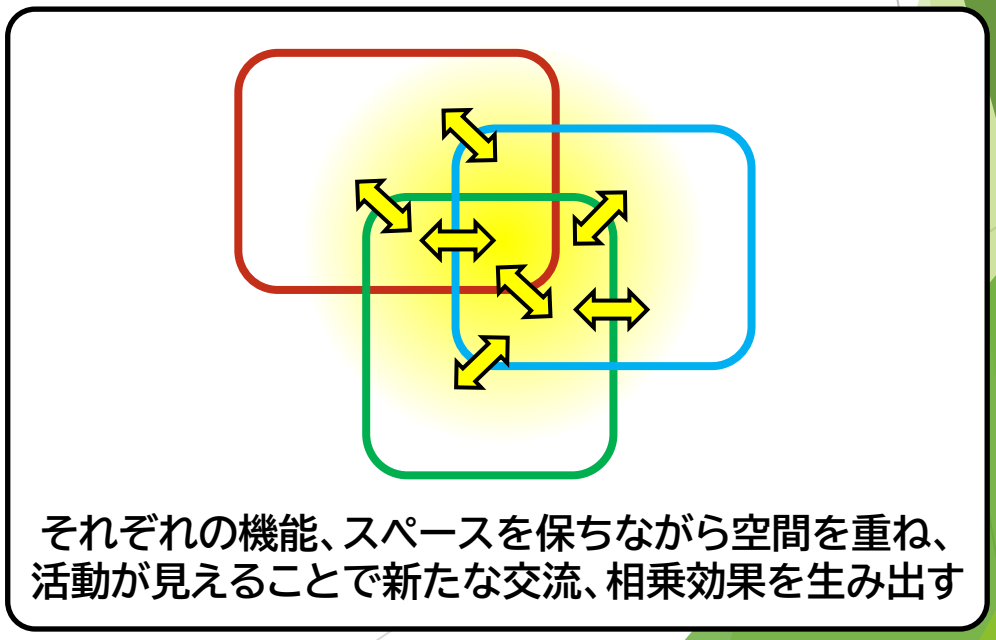
地域が動きだす
➡賑わい・地域活性化

空間が重なり織り交ざる

- 複合施設として**出会いと交流を生み出す工夫**を行います。諸室や機能を単に配置（今の公民館）するのではなく、ゆるやかに**空間がつながり**、機能どうしをつなげます。
- **多様な活動に柔軟に対応**できる、可変性のある空間を創出します。
- 他者の活動が見えて**新たな出会いや交流が生まれ**、活性化や**稼働率の向上**につなげることができます。



それぞれの機能をただ配置するだけでは交流が発生しにくい



それぞれの機能、スペースを保ちながら空間を重ね、活動が見えることで新たな交流、相乗効果を生み出す

機能の両立・相乗効果

- 基本計画の導入機能に基づき、より利用効果を高めつつ、**交流と賑わい、相乗効果を生み出す計画の最適化**により、**3，800㎡（基本計画の約4，300㎡の9割程度）**の施設規模となります。
- 災害時対応として、**避難スペース（スフィア基準）約2，100㎡**に加え、各種災害への対応を図るなど住民の**安心・安全な公共施設**として最適な規模です。



➢ 施設面積の詳細は別紙8を参照

＜計画概要＞

項目	R3基本計画	R8最適化（今回）
敷地面積	駅上広場約8，021㎡	
延床面積	約4，300㎡	約3，800㎡
施設概要	建物は2～3F建を想定 （敷地全体を活用）	建物は2～3F建を想定 （防災広場をできるだけ確保）

持続可能な事業として

- 事業費は、物価情勢や一定のサービス水準の提供を踏まえた場合、**相応の事業規模**になることが予想されます。
- 物価高騰を踏まえた整備費、当初直営による運営費を前提とした財政シミュレーション（現時点での理論値）を試算したところ、**対応可能**な結果となっています。
- 町としても、可能な限り**効率化を図る**とともに、**国の交付金を活用**するなど、最適な財源確保や公共事業全体のバランスに配慮しつつ、将来を見通したまちのあり方として、**必要不可欠な機能を確保**した最適で持続性のある施設と運営を目指します。
- 施設の設計・建設は、民間ノウハウ活用による**DB方式**（デザインビルド：設計施工）を採用します。より魅力ある施設整備をめざすとともに、コスト縮減、資材調達の効率化を図ります。なお、運営は町による直営スタートを予定しつつ、実施状況や住民意見を含めて**柔軟な運営**に取り組みます。

➢ 事業費概算については別紙9を参照



➢ 民活手法のメリット、効果については別紙10を参照

＜事業手法＞

項目	R3基本計画	R8最適化（今回）
事業手法	DBO （設計施工＋管理運営の民活）	DB＋直営 （設計施工の民活＋従来運営）

将来を見据えた最適案

- （仮称）防災・文化センターの整備【現案】は、**日常利用や非常時の対応、将来の町政運営を考えても最適な案**であると考えます。
- 他の整備案（例：最低限の地区会館や避難所特化の案）と公平に比較した場合、以下の特徴があります。

【現案】防災・文化センターのメリット
～他の案に比べて～

- 日常生活のサードプレイス（子どもの居場所、等々）
- 図書館を核とした新たな出会いや交流の創出
- 交流と活性化を育む生涯学習・文化活動の場
- 浸水区域外での安全・安心な住民利用施設の運営
- 非常時のスムーズな対応（フェーズフリー）の実現
- 大幅な基盤整備が不要
- 長期的なコストの優位性（既存公民館の大規模改修と運用費不要など）

- 各案の特徴についての詳細は別紙11を参照

住民参加の施設づくり

- （仮称）防災・文化センターは、**住民参加型**の公共施設です。住民のみなさんも**主体的に関わっていただく**ことで、新たな機会の創出と事業の持続性、そしてまちづくりの活性化につながります。
- 整備にあたっては、基本計画と同じように、**みなさんの意見・要望**をしっかりと聞きながら、検討を進めます。
- 住民目線での運営方法や仕組み、要望などを具現化するため、**住民による会議体の運営**と役場による財政運営を密接に連携していきます。
- **「できないことをできる」**にし、多様な活動と使い勝手のよい安心できる空間を創出します。





- また、住民のみなさんから新しい施設の**名称を募集**したいと思います。田尻らしい、愛着のある名前を今からでも考えてみませんか。

➢ 基本計画時ワークショップ参考意見について別紙12を参照

➢ 名称募集の参考事例について別紙13を参照

おわりに～今後の進め方

- 今年度（令和8年度）は、**このプロジェクトへの理解**をいただくため、引き続き**説明と対話**を進めていきます。
- 順調にご理解いただき、**遅滞なく事業化に向けて**具体的に進めていきたいと考えています。
- 不安定な社会情勢のなか様々な課題もありますが、本町における必要不可欠な施設として、**時代を見通した最適な形で住民のみなさまとともに実現**したいと思いますので、ご協力の程お願いします。





